

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット5階)

事業所番号	2799400011		
法人名	株式会社ユニマツ リタイアメント・コミュニティ		
事業所名	大阪城東ケアセンターそよ風		
所在地	大阪府大阪市中央区森之宮中央2-5-3		
自己評価作成日	令和2年5月14日	評価結果市町村受理日	令和2年7月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階
訪問調査日	令和2年5月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>介護度が高くなり身体的対応が必要となった時でも、スタッフが利用者・家族様の思いを柔軟にこみ取り、会議にてスタッフ一同周知してイキイキとした暮らしを生活していける様に努力し、皆で考えを持ち寄り、医療を連携している所。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p></p>
---------

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に見える申し送りノートの表紙に記入し、常に意識をもって職員全員が共有し実践している。振り返りも大切にして話し合っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	敬老の日・防災訓練等地域行事に参加し近隣の保育園・中学校・高等学校の行事に組み込まれた訪問を受け入れみんな一緒に楽しんでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中央区の認知症の話し合いにも参加し施設での現状をお伝えさせていただき、2か月に1度の運営推進会議を設けて、家族様からの認知症に関する質問を受け会議に出席された自治会の副会長様・民生委員・包括支援センターの職員・家族様と出席した職員とで話し合い理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、当施設での現状を報告し、家族様からの質問・疑問等を受け意向等を話し合い、よりサービスにつなげる様に活かしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課に困りごとや分からないことは、その都度電話にてたずねており意見を聞いてアドバイスをもらっている。北部包括に尋ねたりすることもある。地域連絡会議にて意見交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	城南そよ風では、身体拘束ゼロを掲げており、全体会議・GH会議にて話し合う機会を設けております。三役会議でも各フロア身体拘束が行われていないか確認され職員全体に周知徹底されている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と同様虐待に関しても全体会議・GH会議にて研修が開かれ防止に努めている。研修が開かれることにより、自分への振り返りも各自が出来防止に努めている。教育・チェックを行い危険を早急に見つけ防止できるように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業・成年後見人制度を学び、必要な利用者が活用できるように話し合い、関係機関への橋渡しなどを行っています。これらの制度について、GH会議にてこのような制度があることのお知らせして、これらの制度について利用者・家族様にお知らせしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容について分かりにくかったり、不安や疑問が生じていないか入所者様・家族様に十分な説明を行い、理解納得して頂ける様に、窓口を設け対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議をし、利用者・家族に参加して頂き意見・要望を管理者や職員ならびに外部へ表せる機会を設け、苦情箱・相談窓口を要望ノートにまとめて、反映できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議にてスタッフ間の意見交換を行い、利用者の状況を知っている現場の職員に意見を聞き、代表者・管理者が働く意欲が出る様に耳を傾け質の確保につなげている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持てるように、給料・休み・職務内容に気を配り、やりがいのある職場となるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者・職員一人一人のケアの向上を図り、法人内外の研修を受ける確保や講習会の費用の一部を事業所負担にて受けさせてもらっている。定期的に行われている内部研修にてケアの向上にプラスしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中央区GHネットワーク会議での交流を通じて他GHの事業者と事業運営・法改正サービスについて、情報交換を行っている。事業所や地域全体としてのサービス向上を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人・家族様と向き合い安心できるように、本人の言葉に耳を傾け、気持ちを受け止められるようにして、信頼関係を築いて、傾聴・寄り添いを大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の立場に立ち、困っていることや不安なことを解決につなげられるように密にやり取りして本人様・家族様が納得して頂ける様に進めていきます。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いの中から、本人様・家族様が何に困っているかを聞き、今必要としているサービスを把握して速やかに提示できるような段階を踏んで支援の工夫をしていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の用意や食器拭き・掃除や洗濯・乾いた衣類の畳等、共に暮らす一員としてできる事は一緒にお手伝いして頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の苦しみ・こだわり・喜びを受け止め本人の生活を支えていくように関係を築き、少しでも快適な生活である様に努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様がこれまで大切にしてきた近隣の知人・会社の同僚・クラブの友達等なじみの関係を大切に途切れないように見守り継続できるように、家族様と連絡を持つ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個々の性格などを把握して、利用者間関係の理解に努め、孤立しないよう席の配置に気を配る。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	住み替えが必要になった場合でも関係性が続くように、関係者に対し習慣・好み・ケア方法等状況報告を行っています。継続したケアを行って頂ける様サポートしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る範囲で利用者の意向に応じるよう努め、日々の生活の中でその方の思いを知ろうとコミュニケーションをとっています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人が自分らしく暮らしていける様家族様からの情報・本人からのお話の中から暮らしやすい環境を整える様にスタッフ間で話し合います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活での観察やスタッフ間での申し送りを通じ、改善できるように現状に合わせ、過ごし方を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護する側でなく、本人が暮らしやすくするケアの意見交換を行い、医師・看護師・家族様との連携を図りながら、状況変化に即したケアプランを計画作成担当者が立てています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の状況を口頭の申し送り・申し送りノートで職員周知し、アイバットの生活の気分にて情報を得る。それをケアの実践にプラスしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様・家族様の状況・要望に応じて、病院への受診・定期健診等]付き添い、ニーズに合った対応を心がけています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員・ボランティア・地域の人々の力を借りて本人が安全に自分らしい生活が送れるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	なじみの関係の主治医・利用者様家族様の納得された医師による往診。週1回の訪問看護による健康管理。週1回の歯科往診にて予防の段階での見守りにて病気の悪化を防ぐ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	認知症の利用者様の早い段階でのきずきを、連携の取られている看護職に伝達し、主治医に相談することもある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院されている際、家族様とも相談連携を持ち、職員もこまめに病院を訪れ他職員に報告し状況を把握して周知する。出来るだけ早くに退院できるように、病院関係者・家族様・利用者様と相談して行います。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期支援のあり方で段階ごとに家族様・医療ケアスタッフと関係確認を持ち対応方針を図っていきます。ご家族様とも終末期の対応の相談を持ちながら、一日一日を進めていきます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	慌てずに適切な行動がとれるように応急処置等の講習・勉強会により実践力を身に付けており、実際に生かせるように研修を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、消防訓練や避難訓練を行っており、直通電話や各居室にスプリンクラーを設置しています。食糧や水などの備蓄や、災害時のマニュアルがあり、近隣の救助体制もできている。防災訓練にも利用者様と出席して、実際の煙などを体験している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの誇りを尊重して、尊厳や権利を守るよう努めています。日ごろの言葉かけにも注意してお互いのスタッフの言葉かけにも耳を傾けて注意しあう。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様へのコミュニケーションを大切に傾聴を行い、思いや希望を理解して自身で決められるように見守る。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で決めてしまわないで、その方に合わせた支援をしていく努力をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の服選びその方に合った服選び好みを知りその人らしさを支援していきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりが食事を楽しめるよう、見た目でも楽しみ食欲が出る様に、一緒に準備して食事やかたづけまで一緒に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日を通じて、十分な栄養と水分が摂取できるように声掛けして見守り、食事がとれにくい方には栄養補助食品にて補い、月に2回の体重測定よりその方の状況把握診断を図り、主治医に相談している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア衛生体制加算により一人お一人の嚥下状態・ケアについての指導を受けスタッフが一人お一人のおくちの状況を把握して日々のお口のケアに努めています。お口の中はとても大切で食べれるかの判断が決まってきます。きれいにしていつまでも長生きで美味しくいただいてほしいものです。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	現在のところ、おむつ対応の方はいらっしゃらずに病院から帰られたおむつ対応の方も2人対応でトイレ誘導にて排泄可能となっている。トイレでの自立支援に向け頑張っています。しかし、スタッフの負担はとても大きいです。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の体操で体を動かしていただき、食材の工夫や水分摂取など行い、それでもダメな場合は主治医に相談を持ちコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の生活習慣や希望に応じて入浴して頂いている。拒否がある時はスタッフの人を変えて対応し声掛けのタイミングをみて行っています。時には、場所を変えて、1FDSの大浴場の温泉にお誘いしたりして変化を持たせています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、レクや行けるときには、散歩に行っていたり、体を動かすように支援しています。臥床時間を設ける場合もあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴の把握に努め、服薬変更・用法の把握・副作用を理解して、症状の変化があれば、訪看・主治医・と相談を持ち診て行く。申し送りに記載して様子観察していく。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の役割を持って頂き、張り合いや喜びからの自身の存在を感じ、食器拭き・洗濯畳・拭き掃除等生活歴を生かした支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域での催し物に参加して頂いたり外食レクに参加したり、公園に散歩したり、桜の季節には花見に出かけたりして楽しんでいただく。家族様との外食に出かけられる支援も見守っています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と相談し合意を得て、事業所が利用者様の金銭をお預かりし、管理を行っている。利用者様の必要なものは、買い物は職員が家族様に了解を頂き代行している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様のご希望により、電話や手紙のやり取りができるように職員が支援している。電話をかける相手様につながるように、手紙や切手も代理で買ってお渡ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に季節のお花を飾ったり共有の空間は明るく、物を整理し混乱をしないよう工夫をしている。空間の温度・湿度に気を配り、居心地よく過ごしていただけるように観て行く。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席だけでなく、ソファを設けたり自由に過ごしていただけるように居室に畳を設けるなど試みている。季節感を感じて頂ける様目に入るものにその月の物を置いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真やなじみの物を置いて居心地よく過ごせる空間にしている。思い出の写真・アルバムは、とても喜ばれておられる。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりのADLに合わせた自分の力を発揮できるよう、歩行器・車椅子を使用して、心配のないように生活できるよう支援している。		